

躍動と飛翔の大地

人種差別を乗り越え、豊富な地下資源や観光資源を生かし、地域の一体感を育てながら発展する南部アフリカ。多様な国々が足並みをそろえて共栄の道を目指す今、日本は協調を大事にする同地域の在り方を尊重しながら、個々の強みや課題に対応した支援を展開している。

編集協力：同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 峯陽一教授

大国の覇権の時代から 共栄の時代へ

赤道を挟んで北半球と南半球にまたがり、地球の陸地面積の約5分の1を占めるアフリカ大陸。アフリカの一言では到底言い表せない多様性がある。野生動物が息づくクルーガー国立公園、壮大な景観を誇るビクトリアの滝、優美な砂丘が連なる幻想的なナミブ砂漠など、近年、テレビ番組や観光本を通して私たちが見掛ける機会が増えている地域が南部アフリカだ。

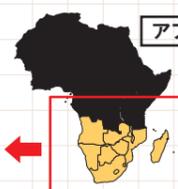
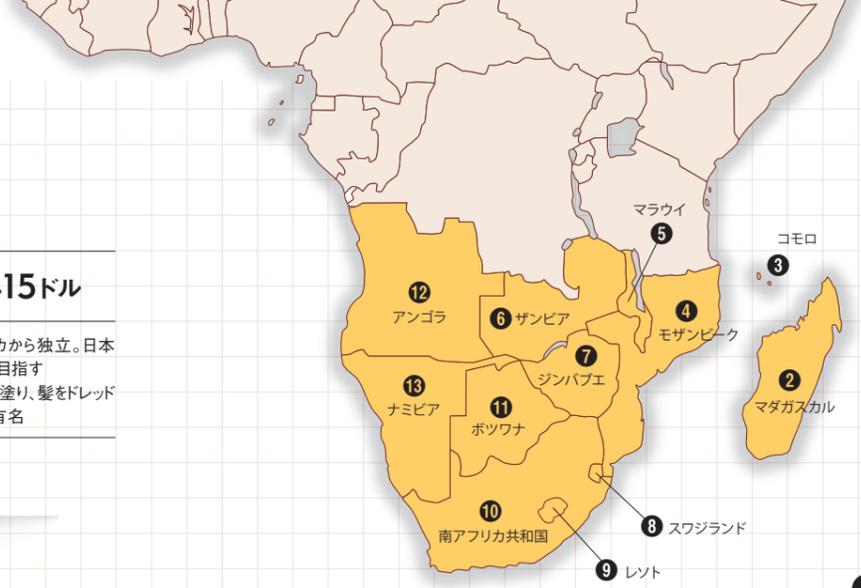
同地域の今を語る上で、「アパルトヘイト（人種隔離政策）」の歴史は避けて通れない。アパルトヘイトとは、南アフリカ共和国で1948年から91年まで続いた、白人と有色人種とを差別する政策。政治、経済、社会の全分野において、国民を人種で分断する法律が施され、有色人種は権利を制限された。アパルトヘイトの撤廃に人生を捧げたネルソン・マンデラ氏が94年に実施された初の全人種参加型の総選挙で大統領に就任し、人種間の和解・協調政策を進めたことは、あまりにも有名だ。

南部アフリカ諸国は、92年から地域の貧困削減と生活向上を目指す「南部アフリカ開発共同体（SADC）」を構成しているが、80年に結成されたその前身は、実は南アフリカ共和国抜きで始まっている。「その背景には、アパルトヘイト体制下の南アフリカ共和国の白人政権が近隣諸国への経済的・軍事的な支配を進める中、諸国がその脱却を目的として団結し

多様性と合意形成を 尊重する協力を

たという事情があります。そう説明するのは、同志社大学大学院の峯陽一教授だ。アパルトヘイト撤廃によって民主化が進んだ南アフリカ共和国は、94年にSADC加盟を果たした。「94年は南部アフリカの転換点といえるでしょう。南アフリカ共和国が、敵でなくなったことで、SADCは一つの経済圏として一体となって発展を推し進めていく道を模索するようになったのです」と峯教授。南アフリカ共和国は白人の人種という歴史的背景もあって、欧米企業との関係が強く、南部アフリカはもとより、アフリカ全体の経済をけん引する大国となった。その勢いを生かしながら共に繁栄していこうとする南部アフリカを、丸ごと後押しする協力が求められている。

南部アフリカの特徴の一つは、全体として製造業や産業インフラが比較的發展しているということ。一方で、地域を構成する国々に目を向けると、それぞれの強みや特性が見えてくる。例えば、ザンビアやボツワナ、アンゴラの強みといえば、豊富な地下資源。持続可能な資源開発を進めるための技術やノウハウの習得が、今後の経済成長の鍵となる。ナミビアやマダガスカル、モリシヤスは旅行先として人気を集めており、観光産業の拡大を地元の発展につなげる仕組みづくりが必要だ。また、ビジネス面で圧倒的な存在感を放つのは南アフリカ共和国。



12 アンゴラ

Angola

2,881万人

953億ドル

3,309ドル

原油
ダイヤモンド
石油製品

59万人

- 1975年の独立から2002年まで内戦が続いた
- 長い内戦の終結後は石油やダイヤモンドを生かして復興

11 ボツワナ

Botswana

225万人

156億ドル

6,924ドル

衣料品
砂糖・魚
ダイヤモンド

154万人

- ダイヤモンド生産世界一。2015年に史上二番目に大きいダイヤを発見
- アフリカ初の地デジ日本方式導入国

8 スワジランド

Swaziland

134万人

37億ドル

2,770ドル

砂糖
木材
濃縮清涼飲料

126万人

- ムカヤ動物保護区では珍しいシロサイとクロサイが両方見られる
- 今年1月に初の青年海外協力隊員を派遣。高校でITを指導

7 ジンバブエ

Zimbabwe

1,615万人

166億ドル

1,029ドル

金
小麦
観光

206万人

- グレート・ジンバブエ遺跡など、5つの世界遺産を有する
- ハイパーインフレ解決のため、過去に日本円含む外貨を国内通貨に

13 ナミビア

Namibia

248万人

109億ドル

4,415ドル

ダイヤモンド
ウラン
甲殻類

145万人

- 1990年に南アフリカから独立。日本の支援で物流立国を目指す
- 全身に赤茶色の泥を塗り、髪をドレッドにする「ヒンバ族」が有名

10 南アフリカ共和国

South Africa

5,591万人

2,955億ドル

5,285ドル

金
プラチナ
加工食品

1,395万人

- サハラ以南アフリカの全GDPの2割を産出する「アフリカのエンジン」
- 日本企業数は140以上で、アフリカ最大

9 レント

Lesotho

220万人

23億ドル

1,040ドル

衣料品
ダイヤモンド
畜産品

108万人

- 周囲を南アフリカに囲まれている小さな国
- 国土の大部分が標高1,500メートル以上にある「天空の王国」

6 ザンビア

Zambia

1,659万人

211億ドル

1,270ドル

銅
トウモロコシ
観光

93万人

- 周辺国の平和を推進する地域の要
- ビクトリアの滝は世界最大級の規模でアフリカを誇る絶景

3 コモロ

Comoros

80万人

6億ドル

775ドル

イランライム(精油)
バニラ
クローブ

2万人

- 三つの島から成る小さな国
- シーラカンスがよく見つかる。高く売れるため、地元の漁師は「幸運を呼ぶ魚」とも呼んでいる

4 モザンビーク

Mozambique

2,883万人

110億ドル

382ドル

アルミニウム
石炭
天然ガス

163万人

- 11世紀から貿易の拠点。織田信長に仕えた弥助の出身地とも
- 日本企業も出資したアルミニウム加工業が経済を支える

5 マラウイ

Malawi

1,809万人

54億ドル

300ドル

たばこ
メイズ
茶

81万人

- 国土の約3分の1は、アフリカで3番目に大きい湖「マラウイ湖」
- 青年海外協力隊の累計派遣数はトップクラス

2 マダガスカル

Madagascar

2,489万人

100億ドル

402ドル

ニッケル
バニラ
クローブ

24万人

- 地理的・文化的にアジアとアフリカを結ぶ玄関口
- 25万種の動植物のうち、8割が固有種という動植物の宝庫

1 モーリシャス

Mauritius

126万人

122億ドル

9,631ドル

衣料品
砂糖
魚

118万人

- 工業化と観光振興に成功して大きく成長
- 地理的に近いため、インド系住民が半数以上を占める

DATA

凡例

- 地図の番号
- 国旗 国名
- 人口 国内総生産(GDP)
- 1人当たりGDP(米ドル)
- 豆知識
- 資源・特産品
- 年間観光客数

日本企業も多数進出しており、南部アフリカのハブとしての役割を果たしている。

日本は政府開発援助(ODA)による現地への専門家派遣や、日本での各種研修プログラムの提供によって、各国が強みを生かせるように後押ししてきた。あわせて、具体的な課題の解決に向けた協力も欠かせない。2015年から続いた干ばつで、マラウイやジンバブエなどで大規模な飢餓が発生したことは記憶に新しい。また、南部アフリカはHIV/エイズの流行も深刻な地域だ。降水量が安定しない地域の農業振興や、健康問題、都市問題など、経済指標に表れない「発展の質」を向上させていくことは、今後の協力を

においてますます重要になるだろう。

峯教授は、南部アフリカの特徴をこう語る。「植民地支配の歴史もあって、アフリカは特定の大国が地域を牛耳るのを嫌う傾向があり、しっかりと国家間で合意を形成しながら物事を進めたいことを好みます。その分、時間はかかりますが、彼らのやり方を尊重し、寄り添っていくことが日本の支援の良さだと思っております」

来年には横浜市で第7回アフリカ開発会議(TICAD7)が開催される。日本とアフリカ諸国がどのような対話を繰り返すのか、それと同時に、南部アフリカをはじめとするアフリカ各地の地域性や多様性にもぜひ注目していただきたい。